

消防報酬を払った火災保険  
—アメリカの火災保険草創期—

アメリカで最初に火災保険の会社を創ったのは、ベンジャミン・フランクリン（1706～1790）である。政治家、外交官、思想家、科学者として有名であるから誰でも耳にしたことがあるだろう。

彼は、フィラデルフィアで新聞社を起こし政治評論家として有名になり、州議会の書記、郵便局長、郵便長官などを務めた。一七七六年の、アメリカ独立宣言の起草委員会のメンバーになり、合衆国代表としてパリに渡りパリ条約締結に貢献した人物である。

彼が29歳のときに消防隊を組織した。最初は地域相互援助の消防隊であった。消防隊の組織は増え、後に地域を越えて、どこの火事でも出動する消防隊になっていった。だが、当時はその費用を建物所有者からの謝礼だけでまかなっていた。そのため、謝礼の金額が少なければ早々に引き揚げる消防隊もいたようだ。

ちなみに、すでに火災保険会社ができていたイギリスでは、保険会社が消防隊を持ち、「ファイアーマーク」のあるお客の火災だけに出動していた。

1752年4月13日、彼はフィラデルフィア火災保険会社を創設した。最初の契約がペンシルベニア州副知事で、二番目が本人だったそうだ。

この会社も、その後に続く会社も、イギリスのように消防隊を持たず、消火は民間に委ねていた。ただ消火費用を保険会社が支払うことにした。そのため、消防隊の意気は上がった。ときには、現場に同時に到着すると燃え盛る炎の前で、報酬の優先権をめぐって消防隊がケンカになることもあったという。

また、保険の申し込みをした客が、家の前に大きな木があることで断られた。木があることで隣家へ延焼する危険があり、消火作業の妨げになることが理由だった。それが発端となって「木があっても引き受ける新保険会社」が設立されたりもした。

今、フィラデルフィアはアメリカの保険発祥の地となっている。1957年、「保険の殿堂」ができるとフランクリンが殿堂入り第一号となった。

盛岡市黒石野 2-13-45  
(株) エイアンドビーアシスト  
野 中 康 行  
TEL 019-662-3010